

YOZAN

「ブロードバンドを連れて行こう」 日本初のWiMAXサービス始まる



代表取締役社長
高取直氏

2005年12月25日、YOZANはWiMAXをバックホールに利用した屋外Wi-Fiサービス「BitStand」を開始した。いよいよ動き出した次世代ワイヤレスブロードバンドの本命。WiMAXを軸に生まれ変わったYOZANの今後の戦略を、高取直代表取締役社長に聞いた。



BitStandサービスで提供される「BitKey」(上)と「Web Distributor」(下)。BitKeyは認証用のUSBキーで、PCに挿すだけで簡単・安全にインターネットに接続できる。Web Distributorはオプションの宅内用Wi-Fiアクセスポイントだ。

2005年、通信業界で最も話題を呼んだキーワードを選ぶとすれば、間違いなく有力候補に挙がるのが「WiMAX」(IEEE802.16-2004)だ。

「次世代ワイヤレスブロードバンドの本命となるのか」「通信業界にどのようなインパクトをもたらすのか」……。多くの人々の関心を集めたWiMAXだが、いよいよ国内でもベールを脱いだ。

年内のWiMAXサービス開始を2005年2月に表明していたYOZANが計画通り、12月25日にサービスインしたのである。ワイヤレスブロードバンドの新しい歴史が日本で始まった瞬間だ。

利用料は月額わずか630円

YOZANのWiMAXサービスは、コンシューマ向けの「BitStand」と、法人向けの「WiMAXダイレクト」の2つからなる。

BitStandは、WiMAXをバックホールにした世界初の屋外Wi-Fiサービス。Wi-Fiアクセスポイント1つひとつに光ファイバーやADSLを敷くのではなく、半径1.2kmをカバーするWiMAX基地局を活用するため、運用コストを安く抑えられるのが特徴だ。高取直代表取締役社長によれば、「英国の大手通信事業者もWiMAXをバックホールにしたWi-Fiサービスを計画中」とのこと。YOZANが世界に先駆けて始めたWiMAXバックホール方式のWi-Fiサービスは今後、世界中で主流になっていくに違いない。

運用コストの低さは、料金に

も当然反映されている。年間利用料はわずか7560円。1ヵ月当たり630円という安さだ。たったこれだけの料金で、上り下り最大9Mbpsのワイヤレスブロードバンドが使い放題になる。

気になるカバーエリアは、次のスケジュールで拡大予定だ(図1)。現在は新宿、渋谷、秋葉原、池袋の4エリアでサービスを提供中だが、2006年6月末までにWiMAX基地局を600カ所、Wi-Fiアクセスポイントを8000カ所に設置。東京23区を面でカバーする計画である。

エリア拡大はさらに続く。2006年9月末までに、八王子、大宮、柏、川崎などの主要部を中心に首都圏全域へ展開。名古屋、大阪でもサービスを開始する。

点から面へ。WiMAXのパワーが日本のワイヤレスブロードバンド事情を一気に変えていく。

希望エリアに基地局設置

法人向けの「WiMAXダイレクト」はそ

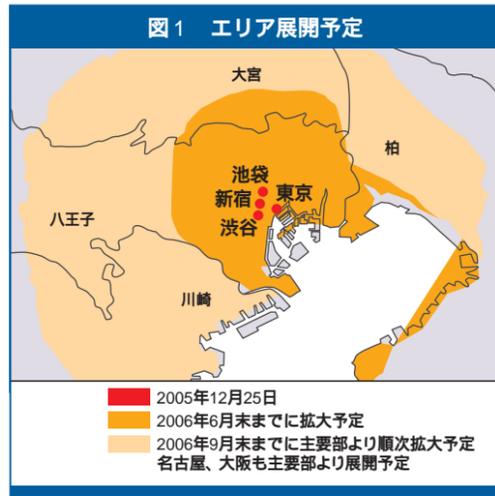
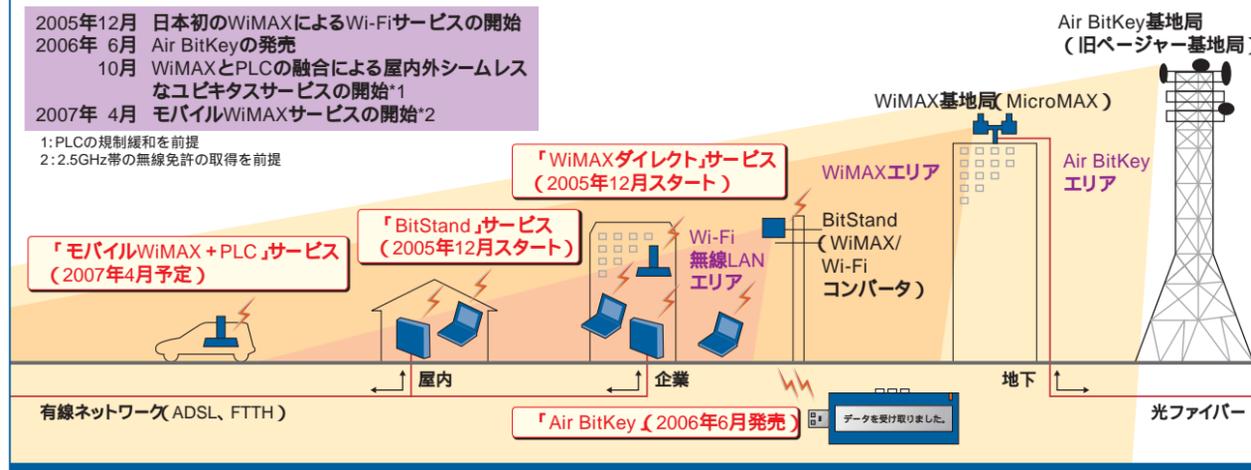


図2 YOZANのサービス計画



の名の通り、直接WiMAXでデータ通信を行うサービスである。ユーザー企業の希望エリアにYOZANがWiMAX基地局を設置し、ワイヤレスブロードバンドアクセス環境を提供する。

ターゲットユーザーの一例はホテルだ。今やホテルにとって、インターネットアクセスやVOD(ビデオ・オン・デマンド)は必須のサービスといえる。しかし、各室をブロードバンド化するには工事が必要なため、どうしても宿泊客に迷惑が及ぶ。ローインパクトな手段が求められていたが、そこで最適なソリューションとなるのがWiMAXダイレクトだ。ユーザー側の工事は一切不要。各室にWiMAX送受信機を置くだけで済む。

この他にも最大9Mbpsの高速性を生かしたハイビジョン映像中継など、さまざまな用途での活用が期待されている。

WiMAXは携帯電話と異なり、誰でも自由に詳細仕様を入手できるオープンな通信方式である。「だから小さなソフトハウスでもWiMAX用のアプリケーションを開発できる(高取社長)。今後、優れたアプリケーションが次々と登場するはずだ。

コース	年間パッケージ料	半年パッケージ料	コース内容
Aコース	7560円 1ヵ月当たり630円	4410円 1ヵ月当たり735円	BitStand使い放題 + BitKey
Bコース	1万1340円 1ヵ月当たり945円		BitStand使い放題 + BitKey + Web Distributor

ページャーとの融合

日本初のWiMAXサービスに踏み出したYOZAN。しかし、「これはファーストステップに過ぎない」と高取社長が話す通り、すでに次のステップに向けて動き出している。

まず2006年6月、ページャー(ポケベル)機能を搭載した認証キー「Air BitKey」を発売。WiMAXとページャーの融合サービスを開始する。

ページャーが用いる280MHz帯は透過性が非常に高く、地下にまで電波が届くという特性を持つ。また、020番号が割り当てられていることもページャーの特色だ。

スピードに優れるWiMAXと、透過性が高く020番号を有するページャー。互いの利点が組み合わせれば、数々のユーザーメリットを生み出せる。現時点でYOZANは、着メロの鳴り分けやワンウェイメール、コントロールコード等の受信などのサービスを提供する予定だ。

ページャーは今ある移動体通信のなかで、最もどこにでも電波が届く方式である。古くから高取社長はページャーの

可能性について言及してきたが、ユビキタス社会が近づくにしたがい、再び脚光を浴びることになると見ている。

モバイルWiMAX + PLC

規制緩和の動きが活発になってきたPLC(電力線通信)にも、YOZANは意欲的に取り組んでいる。今後の政策動向に左右されるが、同社では規制緩和の時期を2006年秋と想定。同年10月のPLCサービス開始を目指し、準備を進めている最中だ。

さらに当然、モバイルWiMAX(IEEE 802.16e)サービスへの参入も狙っていく。モバイルWiMAXの標準化作業は当初の予定より遅れたが、12月に最終承認がなされた。総務省はモバイルWiMAXやiBurst、次世代PHSなどに2.5GHz帯を割り当てる方針を固めており、いよいよ2006年から議論が本格化する。

赤字が続いていたPHS事業の音声サービスは2005年11月に終了。財務体質は今後は急速に改善していく。また、12月には社内カンパニー制度を導入し、組織体制も一新した。「新生」YOZANは日本の通信をどう変えていくのか。ますます目が離せない。

株式会社YOZAN

東京都豊島区東池袋3-1-3
サンシャインシティワールドインポートマートビル8F
0120-86-3743
<http://www.wimax.ne.jp>